

第7章 地域愛，新住民受け入れ受容度などの強弱は， 回答者の属性とどのように関連しているか

——京都市右京区京北宇津地域でのアンケート結果の紹介——

田 村 有 香

1. はじめに

京北は2005年に京都市右京区に編入されたが，それ以前は美山町とともに北桑田郡を構成していた。京北には6つの地域があるが，宇津は其中でも南西部に位置し，気候は比較的穏やかで，京都の五条天神川から国道162号線を利用して車で40～50分と，京都市内各所から通勤圏内である。

1950年には1,114人が住む地域であったが¹⁾，2016年7月現在，住民基本台帳による宇津の人口は431人である²⁾。地域にあった宇津小学校は1999年に廃校となり，隣接する細野地域と周山地域の小学校と統合された。

現在の集落の基盤となった地域集団は，稲作を基盤に弥生時代に形成されたと考えられており³⁾，旧宇津小学校の校庭整備の際には土器が発見されている。戦国時代には宇津城を居城に宇津氏が勢力を持ったが，丹波支配を狙っていた織田信長に派遣された明智光秀によって落城し⁴⁾，現在ではその石垣の一部を残すのみとなっている。

かつては鮎漁と北山杉で栄えた地域だが，現在では目立った産業はない。

2. アンケート調査の概要

本アンケートは，宇津自治会役員と筆者とで項目を相談したうえで実施し，配布の際には宇津自治会と筆者連名の協力依頼文を添付した。

配布は各集落の市政協力員によって20歳以上の男女の人数分が全戸配布され，記入後の調査票は各自が郵送で筆者に返送する方法をとった。調査票には，家族に相談せずに自分の気持ちで回答してほしいとの注意書きを付けた。配布数と回収数，回収率，調査の概要を以下の表1～表3にまとめる。京北はもともと自治会の組織率が高く，自治会長は地域の「村長」といった役割に近いものがある⁵⁾。自治会と連名の協力依頼文が，63.9%という高い回収率の要因になった。

表1 集落別配布数

集落	配布数
柏原	26
弓楸	40
栃本	61
中地	71
明石	36
粟生谷	44
上浮井	29
下浮井	48
総計	355

表2 回収数と回収率

配布数	355通
回収数	227通
有効回収数	227通
有効回収率	63.9%

表3 調査概要

調査期間：2015年10月10日～ 10月31日
調査対象：宇津地域在住の20歳 以上の男女全員
調査方法：全数調査（全戸配布）、 郵送回収
調査主体：田村有香 （京都精華大学人文学部）
協力：宇津自治会

表4 回答者の性別

項目	件数	構成比(%)
男	100	44.1
女	111	48.9
無回答	16	7.0
総計	227	100.0

表5 宇津地域の居住歴

項目	件数	構成比(%)
宇津地域で生まれた	71	31.3
生まれたが一時期転居し戻ってきた	24	10.6
生まれは他地域で子どもの頃地域へ	9	4.0
結婚を機に転入	80	35.2
この地域に住みたくて自分の意志で転入	12	5.3
その他の理由で転入	15	6.6
無回答	16	7.0
総計	227	100.0

表6 回答者の年齢

項目	件数	構成比(%)
20歳代	6	2.6
30歳代	11	4.8
40歳代	33	14.5
50歳代	32	14.1
60歳代	48	21.1
70歳代	42	18.5
80歳以上	40	17.6
無回答	15	6.6
総計	227	100.0

3. 回答者の属性

回答者の属性を表4～表9にまとめる。性別は男性が44.1%，女性が48.9%である。宇津地域の居住的としては，結婚を機に転入した人が最も多く35.2%，続いて宇津地域で生まれた人が31.3%と多かった。「生まれは他地域で子どもの頃地域へ転居してきた」と「結婚を機に転入」をあわせて「家族の都合で転入」とすると合計39.2%，「宇津地域で生まれたが一時期転居し戻ってきた」「この地域に住みたくて自分の意志で転入した」「その他の理由で転入した」をあわせて「Iターン，Uターン」とすると合計で22.5%となる。一時期転居し戻ってきたタイミングによってはUターンではなく家族の都合である可能性も否定できないが，今回の調査ではその区別ができないため，一括してUターンとみなす。

回答者の年齢層は，20歳代から80歳以上までに幅広く分布している。宇津での通算居住年数

表7 宇津居住通算年数

項目	件数	構成比（％）
10年未満	22	9.7
10～19年	24	10.6
20～29年	25	11.0
30～39年	17	7.5
40～49年	40	17.6
50～59年	34	15.0
60～69年	25	11.0
70～79年	14	6.2
80年以上	15	6.6
無回答	11	4.8
総計	227	100.0

表8 宇津地域の中で何でも
相談できる人数

項目	件数	構成比（％）
0人	65	28.6
1～2人	68	30.0
3～4人	32	14.1
5～9人	17	7.5
10～19人	12	5.3
20人以上	3	1.3
無回答	30	13.2
総計	227	100.0

表9 田畑・山の所有

項目	回答数	構成比（％）
両方所有なし	33	14.5
片方のみ所有	74	32.6
両方所有	120	52.9
総計	227	100.0

表10 各スコア計算のために用いた設問

カテゴリー	設問内容
地域愛	1. 宇津地域が好きだ 3. 自分は今後も、宇津地域に住み続けたい 5. 宇津地域に誇りを持っている
生活充実感	2. 宇津地域での生活は充実している 4. 自分の子供や孫の世代の人も、宇津地域に住んでほしい 6. 宇津地域には活気がある 7. 宇津地域は生活の場として今後も良くなる
互酬性	8. 災害などの非常時には近隣どうし団結して助け合える 9. 自分は宇津地域の人の役に立っている 10. 宇津地域の住民はお互いを信頼しあっている 11. 自分は宇津地域で、周りの人々に助けられている
活性化	12. 自分は宇津地域の活性化に関心がある 13. 自分は宇津地域の活性化に向けた活動をしている

は、29年までが31.3%，30年以上59年までが40.1%，60年以上が23.8%である。宇津地域の中で何でも相談できる人数（家族以外）は0人という回答が最も多く、28.6%であった。1人、2人、3人がいずれも10数%，10人以上という回答は6.6%であった。田畑と山（ほとんどが北山杉の植林地）の所有に関しては、約半数が両方を所有している。

4. 「地域愛」「生活充実感」「互酬性」「活性化」スコアと属性の関係

アンケート問1「宇津地域のことについて、あなたのお考えに近い番号に1つだけ○をつけてください」という設問を表10に示すカテゴリーに分け、「大いにそう思う」を2点、「まあそ

図1 地域愛指標と各属性との関係

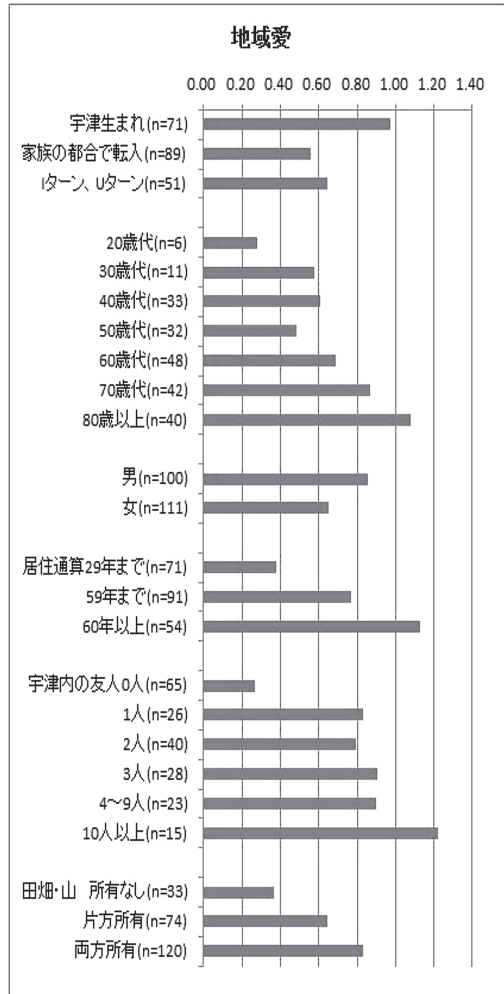
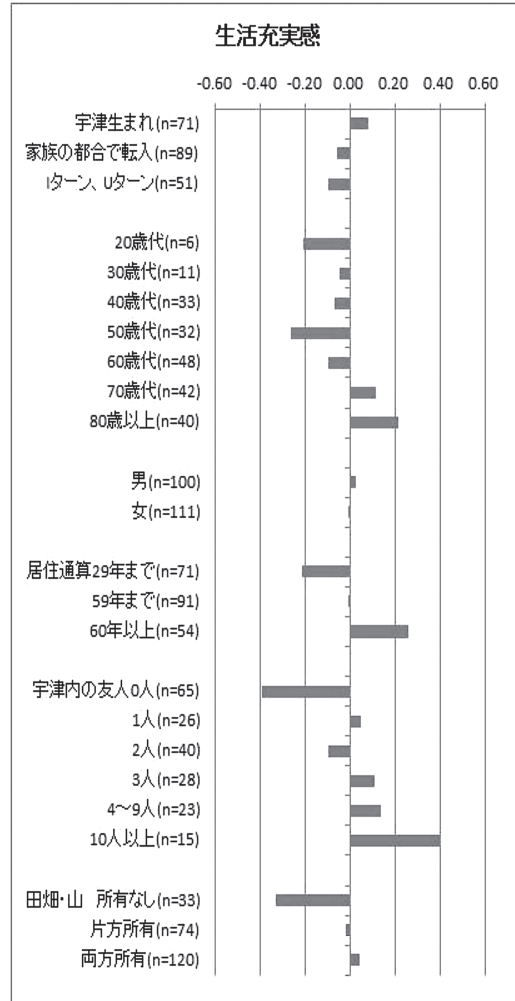


図2 生活充実度指標と各属性との関係



う思う」を1点,「どちらともいえない」を0点,「あまりそう思わない」を-1点,「全くそう思わない」を-2点として加算し, 合計得点をカテゴリー内の設問数で除して, 回答者ごとの「地域愛」「生活充実感」「互酬性」「活性化」得点とした。その得点について属性ごとに求めた平均値がスコアである。各スコアの最大値は2, 最低値は-2である。

地域愛スコア(図1)はどの属性でも正の値を示している。トータルの平均値が特に高いのは,「宇津生まれ」「80歳以上」「居住通算60年以上」「宇津地域内の何でも話せる友人が10人以上」「田畑・山両方所有」という属性の回答者である。

生活充実感(図2)では負の値が目立つ。図1で高い地域愛を示していた層についてはある程度充実感を覚えていることが読み取れるが, 特に充実感が弱いのは,「Iターン、Uターン」「50歳代」「居住通算29年まで」「宇津地域内の何でも話せる友人0人」「田畑・山の所有なし」という属性の回答者である。

互酬性(図3)に対して感度が高いのは,「宇津生まれ」「居住歴60年以上」「宇津地域内の

図3 互酬性指標と各属性との関係

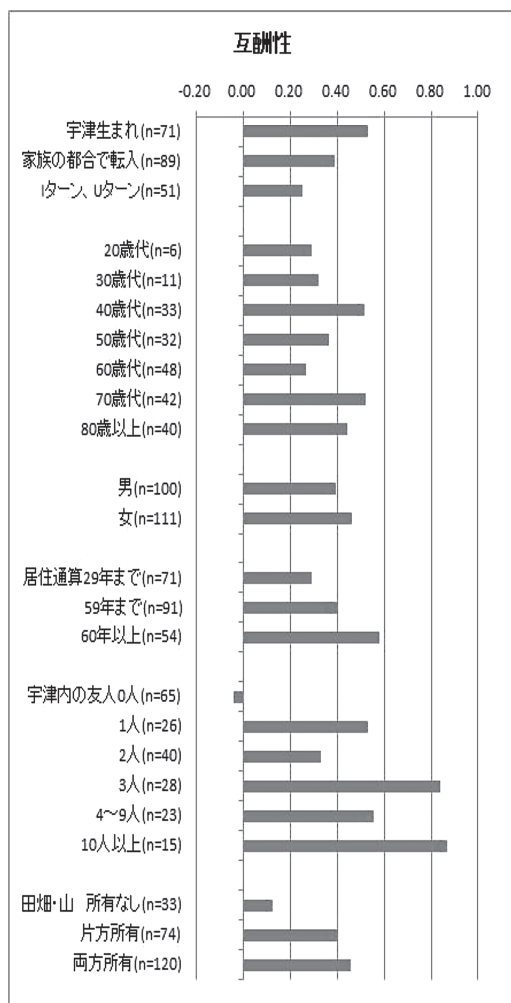
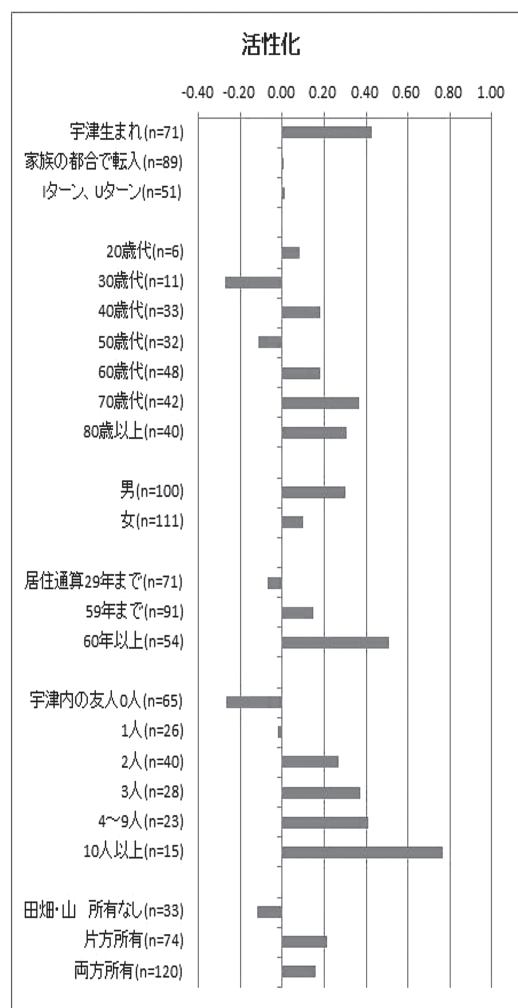


図4 地域活性化指標と各属性との関係



何でも話せる友人が多い人」である。特に、友人が0人と回答した人は互酬性への感度が顕著に低い。

活性化（図4）に対して感度が高いのは、「宇津生まれ」「居住通算60年以上」「宇津地域内の何でも話せる友人10人以上」の人たちであるが、宇津自治会や町内会の役員など、地域を実際に動かしている人たちの属性と一致している。

5. 「受入寛容度」「行事参加度」スコアと属性の関係

アンケートの問5（宇津地域に新住民を受け入れることは、この地域の活性化につながると思いませんか）、問7（宇津地域に新住民を受け入れることについて、あなたは賛成ですか、反対ですか）、問8（宇津地域に日帰りあるいは短期滞在の旅行者を受け入れることは、この地域の活性化につながると思いませんか）、問9（宇津地域に日帰りあるいは短期滞在の旅行者を

図5 受け入れ受容度と各属性との関係

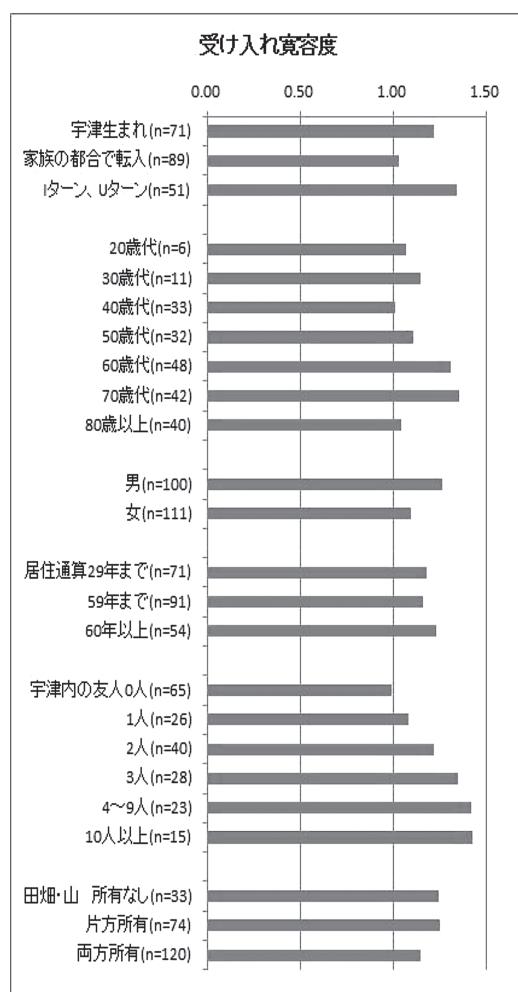
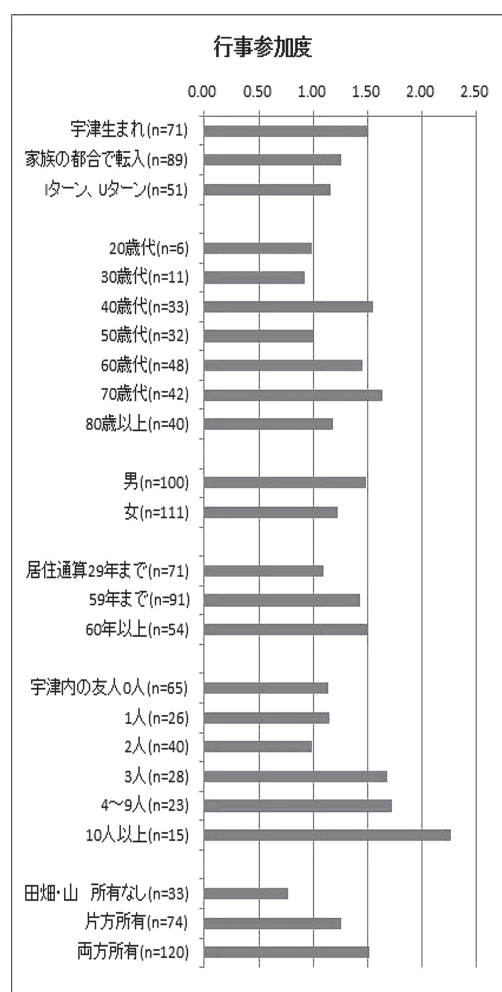


図6 行事参加度と各属性との関係



受け入れることについて、あなた個人の意見としては賛成ですか、反対ですか) については、受け入れに最も積極的な回答の2点から消極的な回答の－2点まで1点刻みで得点化した。また、問6（宇津地域に新住民を受け入れる場合には、「地域の習慣や伝統を大切にする人だけに限定するべきである」という意見に、あなたは賛成ですか、反対ですか）についてはスコアを逆（大いに賛成を－2点、大いに反対を2点）にして加算し、合計得点を設問数の5で除して、回答者ごとの「受け入れ寛容度」スコアを求めた。受け入れ寛容度の最大値は2、最小値は－2である。

受け入れ受容度（図5）は総じて高いが、注目すべきは「Iターン、Uターン」者の受容度が高いことである。これは、新規住民や日帰り・短期滞在の訪問者を受け入れる主体としての役割を、Iターン・Uターン者が担う可能性を示していると考えられる。

また、問10（宇津地域の行事にあなたはどの程度参加していますか）については、伝統行事や地域交流行事、地域清掃活動、自然保護活動など11種類の行事について、「よく参加してい

る」を4点、「まったく参加していない」を0点として、その間の回答は5件法の回答に応じて1点刻みで加算し、合計得点を設問数の11で除して、回答者ごとの「行事参加度」スコアを求めた。行事参加度の最大値は4、最小値は0である。

行事参加度（図6）が高いのは、宇津地域内の友人が多い人である。今回のアンケートで、「よく参加している」と「まあ参加している」が50%を超えたのは、11種類の行事のうち「クリーン作戦などの地域清掃活動」「グランドゴルフ、夏祭りなどの地域交流行事」「とんど、しめ縄づくりなどの伝統行事」のみであり、機会を増やしたり、内容を検討するなど、より多くの主体を巻き込める行事へのニーズがここから読み取れる。

6. まとめ

ここでは、以上の結果を横断的に解釈する試みをもって、まとめにかえたい。複数のグラフからはいくつかの興味深いことが読み取れる。

- (1) 「宇津生まれ」の人は、地域愛、生活充実感、互酬性、活性化ともに、「家族の都合で転入」した人や「Iターン・Uターン」の人よりもスコアが高い。
- (2) 年代的には、「70歳代」「80歳代」の人が、地域愛も生活充実感も強く、また地域活性化に対してもスコアが高い。
- (3) 居住通算年数が短い人よりも長い人の方が、地域愛、生活充実感、互酬性、活性化ともにスコアが高い。
- (4) 地域内で何でも話せる友人が多い方が、地域愛、生活充実感、互酬性、活性化ともにスコアが高い。逆に、「0人」と回答した人は、生活充実感や互酬性、活性化のスコアがマイナスになっている。様々な属性の人が多様に関われる行事や組織のニーズが、ここから示唆される。
- (5) 田畑も山も所有していない人は、いずれかあるいは両方を所有している人より、地域愛、生活充実感、互酬性、活性化ともにスコアが低い。
- (6) 新規住民あるいは日帰り・短期滞在の訪問客に対する受け入れ寛容度は、属性に関わらず総じて高い。
- (7) Iターン・Uターン者の新規住民あるいは日帰り・短期滞在の訪問客に対する受け入れ寛容度は高いが、活性化に関するスコアが低いところから、関心が高くてもそれを示す機会が少ないことが示唆される。
- (8) 宇津生まれで居住歴が長く、田畑や山を所有しているという属性の人は、全ての図から地域への関心が高いことが示されているが、実際のところ自治会の役員など地域での重要な役割をまかされている人は、この属性に当てはまる。

- (9) 全体的にスコアが低かったのは生活充実感であるが、特に20歳代から60歳代までの比較的若手の層、宇津地域内で何でも話せる友人が少ない人、田畑や山の所有がない人については、どのように生活充実感を高めるかが大きな課題である。

地域には活躍の場を待つ多くの人的資源がある。今回明らかになった結果も参考にしながら、地域の人たちや有志の学生とともに、今後とも宇津地域でのアクションリサーチを続けていきたい⁶⁾⁷⁾。

7. 謝辞

今回のアンケート調査実施に際しては、宇津自治会の全面的な協力を得た。また、アンケート調査項目については、佛教大学の的場信樹先生、長光太志先生、奈良女子大学の藤平眞紀子先生に助言をいただいた。宇津地域の住民の方々には忙しい中アンケートに協力していただいた。全ての方々に、この場を借りて心からの感謝の意を表したい。

注

- 1) 京北町 2005『京北町五十年誌』：111
- 2) 京都市統計ポータル 町別人口
<https://www2.city.kyoto.lg.jp/sogo/toukei/Population/index.html#chobetu> 2016.9.29最終アクセス
- 3) 京北町 2005『京北町五十年誌』：117
- 4) 京北町 2005『京北町五十年誌』：141
- 5) 片野直子 2012「京北町の京都市編入合併の検証：住民意識調査と現地ヒアリングをもとにした平成の合併の実証研究」『資本と地域』第8号 地域経済研究会
- 6) 京都精華大学京北宇津宝さがし会 <http://seika-keihoku.com/> 2016.9.29最終アクセス
- 7) 大学コンソーシアム京都 学まちコラボ
<http://www.consortium.or.jp/project/chiiki/gakumachi> 2016.9.29 最終アクセス

引用参考文献等

片野直子 2012「京北町の京都市編入合併の検証：住民意識調査と現地ヒアリングをもとにした平成の合併の実証研究」『資本と地域』第8号 地域経済研究会
京北町 2005『京北町五十年誌』
京都市統計ポータル 町別人口
<https://www2.city.kyoto.lg.jp/sogo/toukei/Population/index.html#chobetu>
京都精華大学京北宇津宝さがし会 <http://seika-keihoku.com/>
大学コンソーシアム京都 学まちコラボ
<http://www.consortium.or.jp/project/chiiki/gakumachi>

(たむら ゆか 嘱託研究員／京都精華大学人文学部准教授)